

IP電話サービスを全方位で支援 沖電気工業の「IP電話普及推進センター」紹介

VoIPソリューションのリーディングカンパニーとして市場で確固たる地位を築いた沖電気工業が、そのノウハウを結集しIP電話のワンストップサービスを提供する「IP電話普及推進センター」を設立した。本コーナーでは、同センターが提供するVoIPサービスを紹介する。

ブロードバンドサービスの急速な普及に伴い、企業ではVoIP技術を活用した音声・データ統合ネットワークの構築が盛んに行われている。また、キャリアやISP等の事業者側でも、IP電話サービスへの参入を相次いで開始している。総務省によりIP電話専用番号「050」の割り当てが決定したことも追い風となって、IP電話サービスは2002年の2000億円から2007年には1兆円市場に成長することが予測されている。VoIP技術を用いたネットワークサービスが本格的な成長期を迎えたことは、疑いようのない

事実である。

このようにVoIP技術を活用したネットワーク構築が一般化する一方で、効果的なVoIPネットワーク導入のためのコンサルテーションをはじめ、高品質な音声通信を確保するためのネットワーク設計・構築ノウハウの提供、導入後の運用アウトソーシング、さらには技術者の教育等、ベンダーに対するサポート要請はこれまで以上に多様化、高度化しており、多くの企業やキャリアからは、これらのサービスをトータルで提供してほしいというニーズも出始めている。

こうした要望に応えるものが、沖電気工業が今年4月に設立した「IP電話普及推進センター」だ。

「キャリアのIP電話サービス事業の立ち上げから、企業のVoIPネットワークの構築、IP電話活用にいたるまで、すべてのサービスをワンストップで提供することが、IP電話普及推進センター（IPTPC）設立の目的です」と沖電気工業IP電話普及推進センター チーフオフィサーの松沼敬二氏は語る。

同社は、96年に国内メーカーとして初めてボイスゲートウエー製品「BS1100」を発売して以来、先進的な製

沖電気工業株式会社

PART 1 「IP電話普及推進センター」紹介

品群を開発・販売するとともに、ネットワークコンサルティングからシステム設計・構築と積極的に事業展開を進め、データ・音声統合のリーディングベンダーとして高い実績を上げてきた。IP電話普及推進センターは、同社が従来提供してきたソリューションに加え、IP電話事業に関わるビジネスコンサルティングから運用アウトソーシング、さらには販売支援までをサポートしており、沖電気工業が培ってきた音声・データ統合に関するノウハウを集大成したサービスセンターといえよう。

IP電話サービスの事業性も検討

IP電話普及推進センターが提供するサービスを見ていこう。

同センターのサービスにはキャリア・ISP向け、企業向けにそれぞれ「ビジネスコンサルティング」、「システムコンサルティング」、「システム設計・構築」、「保守・運用・アウトソーシング」等のほか、「教育サービス」や「検証サービス」が用意されている。

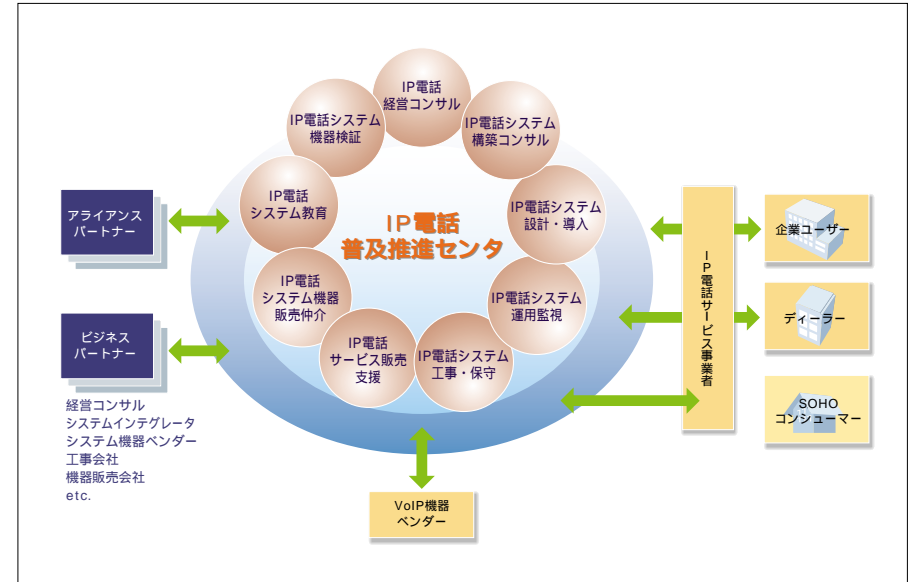
例えばサービス事業者向けのビジネスコンサルティングでは、IP電話事業に参入する際の事業性の判断をはじめ、サービス展開に対する戦略立案を支援している。一方の企業向けでは、VoIP

やIP電話導入にあたっての投資対効果、最適事業者の選択に加え、キャリアとの契約代行までもサポート範囲に含まれている。

効果的なVoIPネットワークの導入・設計、構築を支援するものが「システムコンサルティングサービス」です。VoIPを導入するにあたり、良好な音声品質を確保するためには、最適なVoIP機器の選択から、音質劣化を引き起こす要因を多面的にリサーチした綿密なネットワーク設計が必須となる。最も多くの引き合いを受けているのが「検証サービス」である。

検証サービスは、異なるメーカーの機器同士の相互接続テストをはじめ、さまざまなケースを想定した音声品質評価試験を行うことにより、最適なVoIPネットワークの構築とIP電話サービスの提供を支援するものだ。沖電気工業IP電話普及推進センター、シニア・エバンジェリストの井坂正純氏は、「最近では、キャリアから総務省にIP電話サービスの事業申請を行うため、音声品質の基準を示すR値の測定を行ってほしいという要望も多数受けています」と語る。

同サービスでは、実際のネットワークにVoIP機器を設置し、音声パケットの揺らぎやロス測定するだけでなく、センタラポに疑似IP網を構築し、音質に関してさまざまなシチュエーションを模した多面的な検証を行っている。こうした緻密な検証試験を行うことで、「将来的なデータトラフィックの増加を予測して、帯域幅を拡大させたり、データトラフィックを制御する、などの事前策を講



じることが可能となります。すなわち将来的なネットワーク、システムの変化を見据えたコンサルティングが実現されるわけです（井坂氏）という。

さらに、ネットワーク構築のほか、導入後の運用フェーズに入った際にも、保守・運用支援のほか、ネットワークの性能管理・音質管理などの充実した各種サポートメニューにより、継続して音声品質の維持が実現できる。

また、VoIP技術者のスキルアップを実現するための各種教育メニューの提供も行っており、VoIP関連技術のスキルを認定する資格制度の策定も進めている。

パートナーとの提携でサービス強化

広範囲に及ぶサービスを事業として展開していくためには、さまざまな強みを持ったパートナー企業とのアライアンスが重要となる。

IP電話普及推進センターでは、「アライアンスパートナー」、「ビジネスパートナー」

の2つのパートナー戦略を展開、関係各社との連携により、多様なニーズに対応できるような体制の構築を進めている。

前者は、VoIP、IP電話サービスの付加価値化を図るために共にサービスを創出していくパートナーで、音声品質の測定・検証ではアジレント・テクノロジー、コンサルティングの領域ではベリント株式会社（旧社名 KPMG コンサルティング株式会社）とパートナーシップを締結している。

後者は、IP電話普及推進センターのサービスの販売パートナーに位置付けられるもの。IP電話サービスを自社のビジネスに取り込むべく、パートナーを希望する事業者、SIが相次いでいるという。

松沼氏は、「VoIP、IP電話普及に貢献することで通信市場の活性化を図るとともに、IP電話普及推進センターに携わるパートナー、そしてサービス提供者および利用者のすべてがWIN-WINの関係を築ける場としてさらなるサービスの拡充を図っていきたく考えています」と語っている。